

2016年1月13日

Biomedical Solutions、
大塚グループの JIMRO・大塚メディカルデバイス
ステント型血栓除去デバイスの共同開発に合意

株式会社Biomedical Solutions（本社：中央区、代表取締役：正林和也 以下、BSI）は、2015年12月11日に大塚ホールディングス株式会社傘下において医療機器事業を統括する株式会社大塚メディカルデバイスの子会社で製造販売を担当する株式会社JIMRO（本社：高崎市、代表取締役社長：茅野司郎）と、ステント型血栓除去デバイス開発事業において、共同開発契約を締結しました。

これまでの脳梗塞の急性期治療においては、静注血栓溶解療法（tPA静注）による標準内科治療に加え様々なカテーテル機器を使用した治療が行われておりましたが、適応症例に制限があるなど、全ての患者について十分な治療効果が得られていない状況でした。しかし、最近開発されたステント型血栓除去デバイスを用いた欧米の複数の臨床試験において血管内治療の有効性が示されたことから、ステント型血栓除去デバイスに注目が集まっています。

また、これらの臨床試験成績を受けて米国心臓病学会・米国脳卒中学会による脳卒中治療ガイドラインに、従来のtPA静注とステント型血栓除去デバイスとの併用による血管内治療が推奨されました。

これにより臨床におけるステント型血栓除去デバイスを用いた血管治療ニーズが増幅すると共に更なる次世代のデバイスの上市が期待されております。

BSIが「経済産業省 課題解決型医療機器等開発事業」並びに「AMED 医工連携事業化推進事業」にて開発したステント型血栓除去デバイスは、既存の領域だけではなくより末梢領域における治療を可能とした、次世代のステント型血栓除去デバイスです。今回の大塚グループとの共同開発契約により、今後の臨床開発を大きく前進させ2018年の上市を目指します。